

TKS report vol.28

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

第115期中間報告書

2020年3月1日～2020年8月31日

株式会社 **東京衡機**

TOKYO KOKI CO. LTD.

【東証2部上場（証券コード7719）】

■ トップメッセージ/企業理念



代表取締役社長
竹 中 洋

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第115期上半期（2020年3月1日～8月31日）のわが国経済は、昨年末から中国湖北省武漢市を中心に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症が短期間で全世界に広がり、経済活動や社会生活全般に甚大な影響を及ぼすに至り、海外への渡航規制、国内における緊急事態宣言の発出、外出自粛・休業要請等により、企業活動や個人消費が著しく制限され、景気は急速に悪化し、中々収束の兆しが見えず、先行き不透明な状況となりました。

このような状況の下、当社グループは、試験機事業では、金属、コンクリート、木材等の各種材料の評価試験、エンジン等の動力・性能試験など各分野における業界トップレベルの品揃えを強みに、開発・設計・生産からメンテナンス・校正までワンストップソリューションを提供し、鉄鋼、自動車、鉄道、産業機器等のメーカーや各種研究機関、学校、官公庁など幅広いユーザーからご支持をいただきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が産業界全体に影響を及ぼすこととなり、先行きについては予断を許さない状況となりました。

商事事業では、訪日外国人旅行者が激減したことから、量販店向けの生活関連商品の販売は大幅に落ち込

みましたが、海外向けの商品の仕入・販売については堅調に伸ばすことができました。

海外事業では、オフィス家具部品や家電部品等のプラスチック成型品の製造・販売を行っている中国子会社の黒字化を目指し、引き続き経費の削減に取り組むとともに、日系企業を中心に新たな受注を獲得すべく、営業活動に注力いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により欧米の企業からの注文が大幅に落ち込み苦戦いたしました。

エンジニアリング事業では、従前より特許を有するゆるみ止め製品（ナット・スプリング）のインフラマーケットへの浸透と市場シェアの拡大に努め、比較的堅調に推移いたしました。

当上半期の業績につきましては、試験機事業で受注が落ち込み、海外事業の中国子会社で売上が低迷いたしました。しかしながら、グループ全体としては比較的順調に推移いたしました。今後につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の早期収束を願いながら、期末に向けて試験機事業の受注の回復と売上の確保に向けて営業活動に注力するとともに、海外事業の黒字化を目指して売上の回復に努め、グループとして着実に成長していくことを目指す所存であります。

皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

contents

トップメッセージ/企業理念	— 1
決算ハイライト	— 2
事業の概況	— 3
第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）	— 5
特集 シャルピー衝撃試験機のご紹介	— 7
トピックス	— 9
株式情報/会社概要/役員等	— 10

TKS
TOKYO KOKI

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と
顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、
“価値ある商品”を提供します。

人間性の尊重

一人ひとりの“能力・意欲・創意を
尊重する”とともに、やさしさと
温かみのある人間集団を目指します。

地域社会への貢献

日々の誠実な活動を通じ、
地域からも“信頼される
企業市民”であり続けます。

決算ハイライト

第115期第2四半期累計期間 (2020年3月1日～2020年8月31日)

	連結業績	個別業績 (当社単体)
売上高	4,110百万円 (前年同期比+34.4%)	2,248百万円 (前年同期比+253.6%)
営業利益	184百万円 (前年同期比+10.3%)	81百万円 (前年同期比+209.0%)
経常利益	179百万円 (前年同期比+32.7%)	173百万円 (前年同期比+1.7%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	157百万円 (前年同期比+77.6%)	173百万円 (前年同期比△1.4%)
1株当たり四半期純利益	22円10銭	24円33銭

業績のポイント

- ①試験機事業は、受注環境は厳しくなったものの、前期からの受注済み案件の売上が多く前年同期を上回る利益を確保
- ②商事事業は、海外向けの商品の仕入・販売が堅調に増加
- ③中国子会社は、コスト削減を徹底するも、欧米企業向けの売上の落ち込み幅が大きく苦戦
- ④エンジニアリング事業は、インフラ向けのゆるみ止め製品の販売が比較的堅調に推移

当第2四半期連結累計期間は、試験機事業では、製品の高性能化・高機能化等のブラッシュアップや生産工程・パーツの標準化の推進による原価低減等を継続して収益基盤の強化を図りました。売上高については、第1四半期は既に受注済みの案件が多かったことから、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は少なく、順調なスタートを切ることができ、第2四半期以降は、受注活動の制限や据付、修理等の現地工事に対する制約により売上は低迷したものの、利益については前年同期を上回る結果となりました。

商事事業では、従来から量販店に販売していた一般消費者向けの生活関連商品については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により日本への外国人観光客が激減したことから大幅に減少したものの、昨年から開始した海外向けの商品の仕入・販売については、堅調な伸びとなり、売上高・利益ともに前年同期を大幅に上回ることができました。

海外事業では、中国子会社で新型コロナウイルスへの感染拡大防止に向けた政府の方針に従い半月程度工場の操業を停止したことにより生産高が減少し、売上の落ち込みの要因となりました。工場の操業再開後は、日系企業向けの家電や生活用品等のプラスチック部品の製造・販売は比較的順調に推移したものの、全世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、主要販売先の欧米のオフィス家具メーカーの生産体制に遅れが生じ、オフィスチェア部品の売上が大幅に減少する事態となりました。また、損益につきましては、売上高の大幅な減少に対応すべく、人員の適正化や購買管理の強化などコストの削減を徹底いたしました。

エンジニアリング事業では、ゆるみ止めナット・スプリングについては、高速道路や橋梁、エネルギー関係等の社会インフラ向けや国内建設市場向けに製品の浸透と市場シェアの拡大に努めた結果、インフラ向けの製品販売を中心に比較的堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は上記のとおりとなりました。

■ 業績の見通し (2020年10月15日の決算発表時点)

第115期 (2020年3月1日～2020年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	
連結業績	通期	8,300百万円	420百万円	380百万円	310百万円

※個別業績予想の公表は行っていません。

事業の概況

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供している

セグメント別売上高構成比（2020年8月期） ※売上高には、外部顧客への売上高を記載しております。また、△は損失を示しております。



当社グループは、「新たな企業創生へのチャレンジ！」をテーマに各事業において以下のビジョンを掲げ、新たな東京衡機グループの創生に取り組んでいます。

試験機事業	産業・科学の基盤技術を支える信頼感と存在感のある試験機企業を目指す。
商事事業	アジアを中心とした国際マーケットを視野に入れビジネスの拡大を目指す。
海外事業	中国子会社のプラスチック成型事業を中心に安定的な収益基盤を確立する。
エンジニアリング事業	社会に安全・安心を提供し豊かな社会の実現に貢献する企業を目指す。

事業拠点



相模原工場

本店
〒101-0025
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
第7東ビル



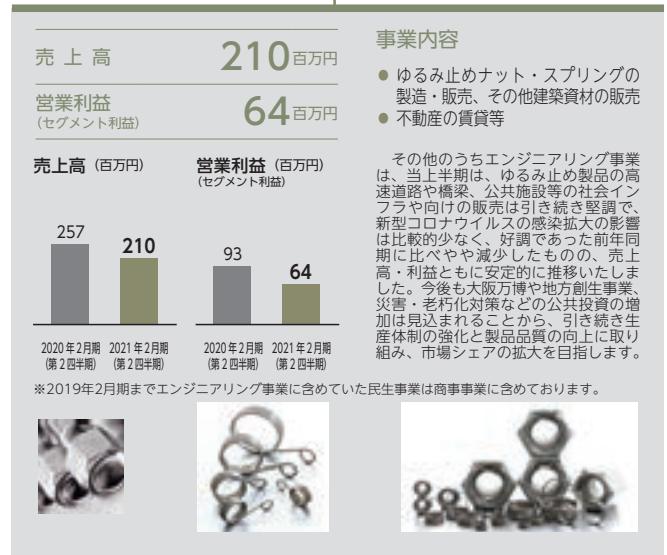
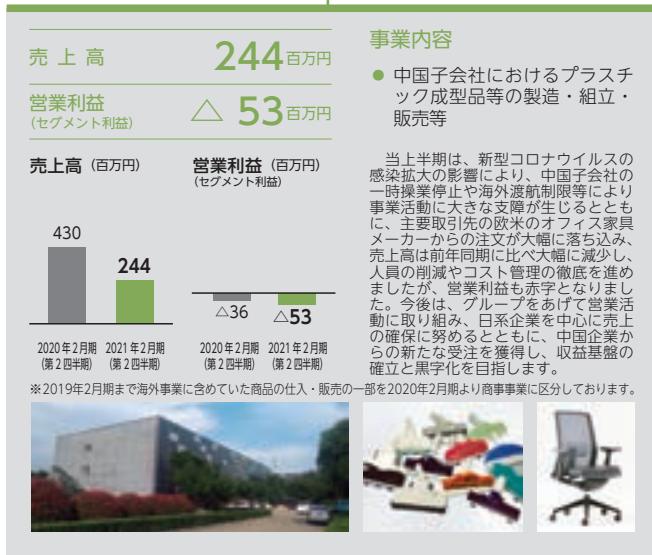
豊橋工場

エンジニアリング事業など、技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく様々な事業を展開しています。

50.6%

海外事業
6.0%

その他(エンジニアリング事業ほか)
5.1%



国内子会社

株式会社東京衡機試験機

- 本店・東京支店
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル
- 相模原工場
神奈川県相模原市緑区三井315番地
- 豊橋工場・中部営業所
愛知県豊橋市北島町字北島202番地
- 大阪支店
大阪市淀川区西中島五丁目12番8号 新大阪ロースビル7階

株式会社東京衡機試験機サービス

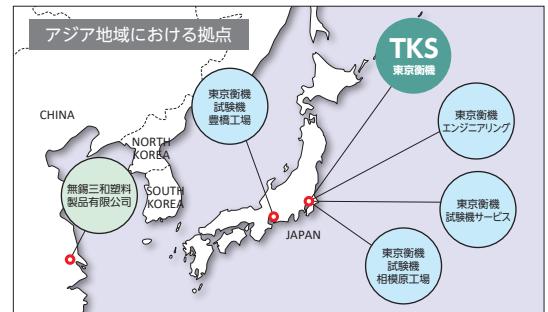
- 本社
神奈川県相模原市緑区三井315番地
- 西日本営業所
大阪府大阪市淀川区西中島七丁目8番17号 花原第五ビル8階

株式会社東京衡機エンジニアリング

- 本社
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル

海外子会社

- 無錫三和塑料製品有限公司 (中国江蘇省無錫市)
- 無錫特可思衡機貿易有限公司 (中国江蘇省無錫市)



第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

四半期連結貸借対照表

科目	前第2四半期末 2019年8月31日現在	当第2四半期末 2020年8月31日現在
資産の部		
流動資産	3,074	3,017
現金及び預金 1	824	1,192
受取手形及び売掛金	1,140	1,121
たな卸資産 2	973	730
その他	235	86
貸倒引当金	△ 99	△ 114
固定資産	1,206	1,231
有形固定資産	1,073	1,075
無形固定資産	12	18
繰延税金資産	79	96
投資その他	230	230
貸倒引当金	△ 189	△ 189
資産合計	4,281	4,248
負債の部		
流動負債	1,765	1,449
固定負債	989	901
負債合計 3	2,755	2,351
純資産の部		
株主資本 4	1,153	1,525
その他の包括利益累計額	372	371
純資産合計	1,525	1,896
負債純資産合計	4,281	4,248

Point1 現金及び預金

売上高の増加に伴う代金回収の増加と金融機関からの資金調達により前第2四半期末に比べ3億67百万円増加しております。

Point2 たな卸資産

主に試験機事業の製品の減少と、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の原材料の評価減により、前第2四半期末に比べ2億43百万円減少しております。

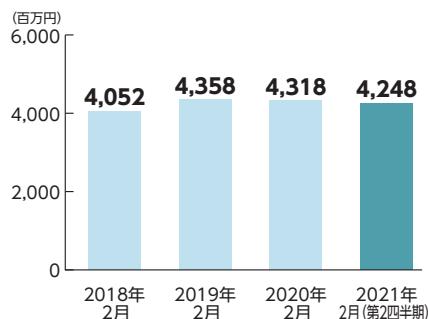
Point3 負債合計

主に買掛債務の減少により前第2四半期末に比べ4億4百万円減少しております。

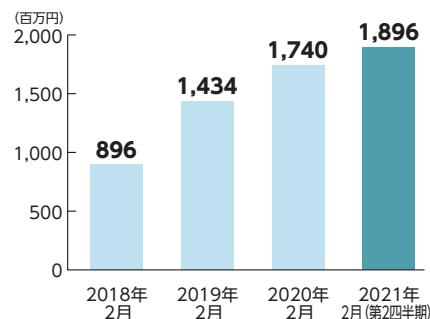
Point4 株主資本

前連結会計年度下半期の2億14百万円の純利益に当第2四半期の1億57百万円の純利益を加えた結果、前第2四半期末に比べ3億71百万円の増加になっております。

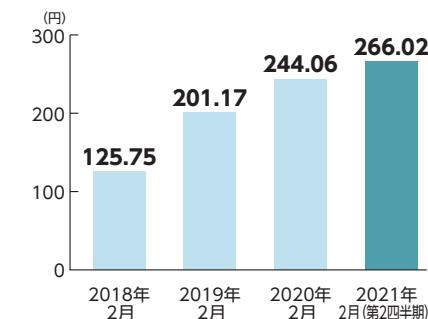
総資産



純資産



1株当たり純資産



※2018年9月1日付の株式併合に伴い、2018年度期首に株式併合が行われたと仮定して算定しております。

四半期連結損益計算書

科目	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)
	2019年3月1日~2019年8月31日	2020年3月1日~2020年8月31日
売上高 5	3,057	4,110
売上原価	2,352	3,458
売上総利益 6	705	652
販売費及び一般管理費 7	538	467
営業利益	167	184
営業外収益	9	9
営業外費用	42	14
経常利益	135	179
特別利益 8	17	31
特別損失	—	—
税金等調整前四半期純利益	152	211
法人税等	63	53
四半期純利益	88	157
親会社株主に帰属する四半期純利益	88	157

Point5 売上高

売上高は前第2四半期(累計)に比べ10億52百万円増加しております。商事事業は13億84百万円の増加となるも、試験機事業は99百万円の減少、海外事業は1億86百万円の減少、その他事業は47百万円の減少となっております。

Point6 売上総利益

売上総利益は前第2四半期(累計)に比べ53百万円減少となり、売上総利益率も7.2ポイント悪化し15.9%となっております。

Point7 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、主に当社と中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司における経費の削減により前第2四半期(累計)に比べ70百万円減少しております。

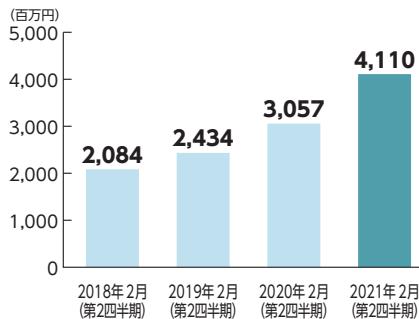
Point8 特別利益

特別利益として、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の訴訟終結に伴う債務勘定整理益30百万円、訴訟損失引当金戻入益1百万円を計上しております。

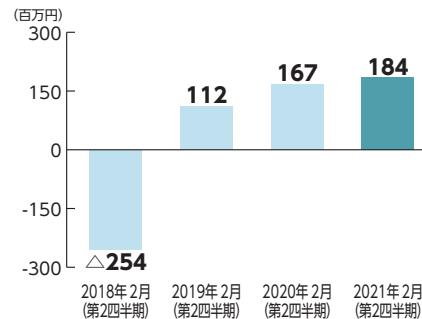
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)
	2019年3月1日~2019年8月31日	2020年3月1日~2020年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	152	182
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7	△34
財務活動によるキャッシュ・フロー	18	81
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増加額	161	229
現金及び現金同等物の期首残高	618	906
現金及び現金同等物の期末残高	779	1,135

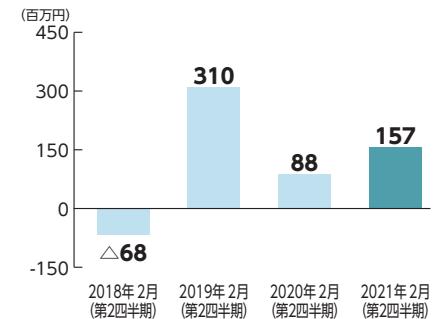
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



※△は損失を示しております。



シャルピー衝撃試験機とは

材料を評価するうえで必要な指標の一つにシャルピー衝撃値という規格化された特性値があります。

シャルピー衝撃値とは、決められた形状の試験片を一定の高さから振り下ろしたハンマーにより高速で打撃し、破壊のために吸収されたエネルギーや靱性（材料の粘り強さ）を評価するための値で、この値を測定するための試験機がシャルピー衝撃試験機です。



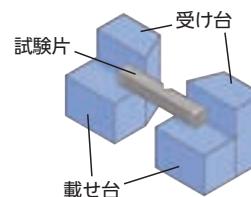
シャルピー衝撃試験機

㈱東京衡機試験機のシャルピー衝撃試験機

シャルピー衝撃試験機は、㈱東京衡機試験機が永年にわたり製造している主力製品の中の1機種であり、中でも金属材料向け衝撃試験機は、日本国内においてトップシェアを誇っております。

シャルピー衝撃試験機の基本的な仕組みは、強靱なフレームと破壊に耐えるための試験片載せ台および受け台（アンビル）とハンマーというシンプルな構成となっておりますが、剛性の高いフレームはもとよりハンマーの刃先とアンビルの硬さ、形状の精度、耐久性が重要な要素となります。㈱東京衡機試験機のシャルピー衝撃試験機は、永年にわたり培われた高い技術によって高い品質と信頼性を確保しており、多くのお客様から高い評価をいただいております。

また、㈱東京衡機試験機のシャルピー衝撃試験機は国家標準機として採用され、国際比較や検証用基準試験片の値付けにも使用されてきており、国内だけでなく海外においても数多くの使用実績がございます。



試験前の試験片（左）と
試験後の試験片（中・右）

シャルピー衝撃試験機の動向

最近の鉄鋼材料は高強度化が進んでおり、試験で求められる破壊に必要な吸収エネルギーの値も増加の傾向にあります。鉄鋼材料の試験機の定格容量としては500 Jが一般的ですが、近年では800 Jと高い容量の需要も増えており、省人化、試験効率の改善、試験片のセット位置精度の向上のために自動化が進み、ロボットによる試験片のセットや、回収機構を備えた設備の需要も増えてきております。

なお、大容量の衝撃試験については、従前は重錘を高い位置から落下させて試験をする落錘試験が一般的でしたが、安全性、騒音、振動、精度、保守の観点から近年では振り子方式の衝撃試験機が採用される傾向にあり、振り子式衝撃試験機としては国内で最大級となる最大容量60,000 Jの大型全自動衝撃試験機の納入実績もあります。

シャルピー衝撃試験機は、今後も自動化や大型化の需要が増え、定期点検やメンテナンスなどのお客様からのご要望も増加していくことが期待できる製品です。



大型振り子式衝撃試験機



全自動シャルピー衝撃試験機

トピックス

ゆるみ止め製品の品質向上のために振動試験機を追加導入

(株)東京衡機エンジニアリングでは、ゆるみ止めナットやゆるみ止めスプリングなどの多くのゆるみ止め製品を開発、製造、販売しておりますが、今般、ゆるみ止め製品の品質向上のために、グループ会社の(株)東京衡機試験機から専用の振動試験機を追加導入し、相模原センターに設置いたしました。

ゆるみ止め製品の性能の根幹である「ゆるみ止め」を保証するために、製品の開発時および製造時には振動試験機を用いてゆるみ止め性能が機能しているかどうかを確認いたします。自社開発のゆるみ止め製品として初めて世に出した「ハイパーロードナット」も試作品の製作時に振動試験機でゆるみ止め性能を繰返し確認し製品化に至りました。その後、振動試験は、自社のゆるみ止め製品の検査項目の一つに組み込まれ、常に安定した製品のご提供に重要な役割を果たしております。ゆるみ止め性能を確認する振動試験の検証方法は、米国航空規格NAS (National Aerospace Standard) 3350に準拠した衝撃型振動試験となっておりますが、この試験でナットに加える振動衝撃は相当過酷なもので、一般的に用いられているナットであると1,000回程度の振動で脱落してしまいます。その振動衝撃を30,000回加えてもゆるみが発生しないことがNAS3350に規定されていて、今まで数百名のお客様に試験の立会に来ていただいておりますが、試験したゆるみ止め製品が合格した後は、皆様から「この試験に耐えられる製品であれば日常的な環境でゆるみが出るとは考えられない」というご感想をいただいております。

(株)東京衡機エンジニアリングは、これからもゆるみ止め製品の更なる品質向上を目指し、ゆるみ止め製品をお求めになる皆様に安心と安全をご提供して参ります。



振動試験機本体 (右) と制御装置 (左)



振動試験機のカバーの中の試験体 (ゆるみ止めナット)

株式情報 (2020年8月31日現在)

● 株式の概況

発行可能株式総数	26,000,000株
発行済株式の総数※	7,133,791株
株主数	3,126名

※上記の発行済株式の総数には、自己株式2,899株を含みます。

● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
Dream Bridge株式会社	21,401百株	30.01%
竹中 洋	3,656百株	5.12%
株式会社AIIN	2,488百株	3.48%
株式会社SBI証券	1,975百株	2.76%
佐藤 充弘	1,592百株	2.23%
岡崎 由雄	1,050百株	1.47%
楽天証券株式会社	946百株	1.32%
石井 照義	900百株	1.26%
上野 拓	850百株	1.19%
新沼 吾史	511百株	0.71%

※持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式(2,899株)を控除しております。

● 株式の分布状況



● 事業法人等	24,778百株	34.73%	● 1単元未満	176名	5.63%
● 個人・その他	40,673百株	57.02%	● 1単元以上	1,775名	56.78%
● 金融機関	358百株	0.50%	● 5単元以上	404名	12.92%
● 証券会社	3,888百株	5.45%	● 10単元以上	588名	18.81%
● 外国法人等	1,611百株	2.26%	● 50単元以上	98名	3.14%
● 自己名義株式	29百株	0.04%	● 100単元以上	85名	2.72%
合計	71,337百株	100%	合計	3,126名	100%



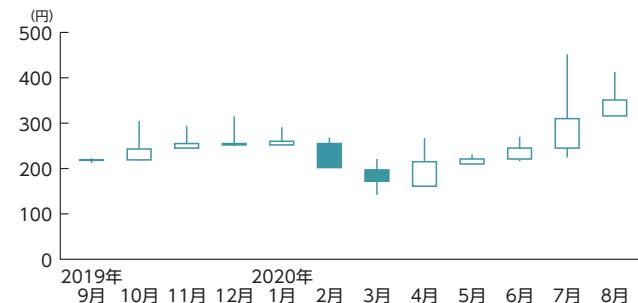
会社概要 (2020年8月31日現在)

商号	株式会社東京衡機
本店所在地	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創立	1923年(大正12年)3月20日
資本金	27億1,355万2,013円
従業員数	14名(連結256名)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東京衡機グループの経営戦略の立案・遂行 ・グループ子会社の統括管理およびサポート ・商事事業 【グループの事業内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・試験・計測機器および関連機器の製造・販売ならびに修理・メンテナンス、校正、受託試験その他の付帯サービス ・ゆるみ止めナット、ゆるみ止めスプリング、特殊ばね、ボルトその他の締結部材の製造・販売、各種サービス ・一般消費者向け商品の仕入・販売、各種サービス

役員等 (2020年8月31日現在)

代表取締役社長	竹中 洋
常務取締役 試験機事業担当	上野 正男
常務取締役 エンジニアリング事業担当	平田 真一郎
取締役 管理本部長	石見 紀生
取締役 (社外取締役)	石渡 隆生
取締役 (社外取締役)	飯屋 浩一
取締役 (社外取締役)	藤田 泰三
常勤監査役	鶴見 孝
監査役 (社外監査役、弁護士)	水川 聡
監査役 (社外監査役)	玉虫 俊夫
監査役 (社外監査役、公認会計士・税理士)	瀬山 剛
会計監査人	アスカ監査法人

● 株価の推移



株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同上連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番1号 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第二部
公告の方法	電子公告 (掲載URL http://www.tksnet.co.jp/) (ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

東京衡機ホームページ
<http://www.tksnet.co.jp/>

IR情報はここからご覧いただけます。



ロゴマークについて

“技術力” “獨創性” “人” “伝統” 全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かう東京衡機の姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を「光のイメージ」に展開しています。

青：東京衡機の技術力

真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のご要望に的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、東京衡機の“技術力”を「青」で表現しています。

赤：東京衡機の獨創性

万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。

情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、東京衡機の“獨創性”を「赤」で表現しています。

緑：東京衡機の人

自然の美しさや木々の芽吹きを連想させる「緑」は、さすががさ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えた東京衡機の財産“人”を「緑」で表現しています。

紫：東京衡機の伝統

染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、東京衡機の“伝統”を「紫」で表現しています。

株式会社 **東京衡機**
TOKYO KOKI CO. LTD.

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
TEL 03-5207-6760 FAX 03-5298-6111



環境に配慮した植物油インキを使用しております